

## 第2学年 美術科学習指導案

- 1 題材名 木のぬくもりを感じて  
A表現(2)(ウ)・(3)(ア)(イ)、B鑑賞(1)(ア)

### 2 題材について

- (1) 生徒観  
(省略)

(2) 教材観

木材は、ぬくもりやあたたかみを感じさせる自然材として私たちの生活に不可欠であり、木目の美しさや木肌の心地よさ、香りなど、他の材料にはない特長をもつ。特に、日本は古来より豊かな自然に恵まれ、四季の移ろいの中でその自然を感じながら生活を営んできた。しかし近年では安価で便利な人工的な素材に囲まれ、身近に自然材が減少している傾向にある。

本題材では、木材のかつら材（赤白混合）を用いて、生活で使用するための工芸品を制作する。日常生活で使用する目的をよく考え、木材のぬくもりや積層による木目を生かして、「使いやすさ（機能）」と「美しさ（形の工夫）」を兼ね備えた作品となることをねらいとしている。動植物など自然物の形をテーマとして、生活を美しく飾るためのイメージを広げ、それを積層の技法を生かした立体的な形へと構想していく。そのため、5枚の板を様々に重ね合わせるとどのような形が生まれるのかをじっくり思考させることが重要である。さらに、木材を無駄なく使用するために、積層の方法によって生まれた端材を利用することで、形や装飾にも工夫を凝らすことができる。本題材を通して、5枚の木材から生まれる形の可能性と積層の美しさを生かした構成力を身に付けさせ、木材加工の面白さを味わいながら、手作業で丁寧につくられる作品への愛着を深めさせたい。

(3) 指導観

重ねたり切ったり削ったり磨いたりすることで、一枚の真っ直ぐな板は柔らかな曲線をもった形へと変化していく。導入で、積層の技法や様々な用具による加工方法をICTを用いて動画で分かりやすく紹介し、真っ直ぐな板を立体的に重ねたり、加工して丸みを帯びさせたりするイメージをもたせる。工芸作品の制作は、第1学年時の「お気に入りの焼き物」においてすでに学習している。本題材では、日常で使用するための使いやすさと美しさの関係についてさらに考えを深めるために、最初に身近な文房具の鑑賞を行う。過去にグッドデザイン賞を受賞した蛍光ペンなどについて、使いやすさと美しさの視点から、受賞した理由やデザインの変遷、どのような工夫があるのかをグループで話し合い、考えを深めながら使いやすさと美しさをバランスよく兼ね備えることに気付かせていく。それをもとに、発想をふくらませていくが、この段階ではデザインの候補は浮かぶものの、それを立体的な形にイメージしようとする、思考が止まってしまう生徒も少なくない。そこで、特に木材で制作することを考慮し、「形を分かりやすく単純化させる」、「端材を活用して形を工夫する」という点に注目させたい。その際、自分のアイデアがなかなか浮かばない生徒には、「縦積みと横積みのしくみ」という積層の技法の視点で、板の重ね方から選ばせ、そこから発想を広げる方法も提案したい。また、これまでに木材加工に欠かせない電動糸のこぎりを十分に活用できずにいる生徒も少なくないため、ベルトサンダーを含め、操作の手順から、安全面に十分配慮した用具の扱い方の指導が必要であると考ええる。

### 3 研究主題とのかかわり

「確かな学力をはぐくむ指導方法の工夫・改善」

～ 「主体的・対話的で深い学び」を追究する学習過程の工夫 ～

美術科における「確かな学力」とは、「課題に対して自分が表現したいものを豊かにイメージし、創造的に表現する技能を身に付け、それを実生活で生かすことのできる力」と捉えている。「主体的・対話的で深い学び」については、アイデアをじっくりと練ったり、他者の考えや作品から新たな発想や表現を学んだりして、制作の見通しをもって限られた時間の中で作品に没頭できることであると考える。その研究を進めるための具体的な方策を以下のように立てた。

#### ・主体的な活動の工夫

ワークシートに単元の授業計画と手順を示し、今どの段階なのか、次は何をすればよいかをイメージしながら授業に取り組めるようにした。板書では本時の学習内容や学習活動について簡潔に分かるように示し、美術室に来た生徒が、今日は何を目指すのかがすぐに目に入るようにしている。「制作のあゆみ」(進度表)には一単位時間の終了ごとに、どのような学びや気づきがあったか、自身の活動を振り返って記入し、次時の学習に生かせるようにしている。

#### ・対話的な学びの工夫

設定された課題に対して、対話的で深い学びが実践できるよう、課題内容に応じた「アクティブタイム(話し合い活動)」を取り入れた。導入の段階ではカルテット形式(4人グループ)で身近な文房具を鑑賞してその発想を学び合った。本授業では、制作中の作品についてカルテット形式で互いに意見交換を行い、そこから得たアドバイスを今後の作品制作に生かすことをねらいとしている。自分の作品の意図や工夫を他者に分かりやすく伝えたり、他者からのアドバイスや意見をグループで共有したりして、それを個々の制作に生かすことで学びを深める手立てとしたい。

### 4 学習指導要領上の位置付け

#### A 表現

(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。

ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。

ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。

イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。

#### B 鑑賞

(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

[共通事項]

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

## 5 題材の目標と評価規準

### (1) 目標

- ・使いやすさと美しさのデザインに関心をもち、計画的に制作を進め、作品制作や鑑賞に意欲的に取り組むことができる。
- ・積層の技法による木目の色合いを生かし、使いやすく美しい形を工夫することができる。
- ・木材の特徴を効果的に生かし、制作の手順を工夫して用具を適切に扱いながら創造的に表現することができる。
- ・自分の制作や作品を振り返り、友達の作品からよさや美しさを感じとることができる。

### (2) 評価規準 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、機能と美しさを兼ね備えてデザインすることに関心をもち、主体的に表現したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとしている。	使用する目的や機能をもとに豊かに主題を生み出し、 <u>素材の特性を生かして形や色、創造的な構成を工夫して</u> 、総合的に考え表現の構成を練っている。	木材の特性を効果的に生かし、制作手順などに見通しをもたせ、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫しながら、創意工夫して表現している。	造形的なよさや美しさ、 <u>目的や機能に応じた形や色などの工夫を感じとり</u> 、日本文化への理解を深め、自分の価値意識をもって味わったり見方を深めたりしている。

## 6 指導計画・評価計画（11時間） ※本時9／11

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法						
1 積層の技法や用具について学び、身近なものの鑑賞をして、題材への関心を深める。（1時間） ・木材、積層の技法、用具についての学習 ・グッドデザイン賞文具についてグループ鑑賞	○			○	<table border="1"> <tr><td>関</td><td>ワークシート記述</td></tr> <tr><td>鑑</td><td>対話</td></tr> <tr><td></td><td>ワークシート記述</td></tr> </table>	関	ワークシート記述	鑑	対話		ワークシート記述
関	ワークシート記述										
鑑	対話										
	ワークシート記述										
2 積層による木目の美しさを生かし、使いやすさと美しさのデザインの構想を練る。（2時間） ・テーマ、マッピング、アイデアスケッチの決定 ・5枚の板の図面を設計	○	○			<table border="1"> <tr><td>関</td><td>対話、観察</td></tr> <tr><td>発</td><td>クロッキー帳</td></tr> <tr><td></td><td>アイデアスケッチ</td></tr> </table>	関	対話、観察	発	クロッキー帳		アイデアスケッチ
関	対話、観察										
発	クロッキー帳										
	アイデアスケッチ										
3 木材の特性を生かしながら計画的に制作する。（7時間） ・木材の加工法を身に付け、計画的に制作	○		○		<table border="1"> <tr><td>関</td><td>対話、観察</td></tr> <tr><td>創</td><td>作品、観察</td></tr> </table>	関	対話、観察	創	作品、観察		
関	対話、観察										
創	作品、観察										
4 完成作品鑑賞会を開く。（1時間） ・自己評価、制作の振り返り ・相互鑑賞、コメントカードの記入	○			○	<table border="1"> <tr><td>関</td><td>対話、観察</td></tr> <tr><td>鑑</td><td>対話</td></tr> <tr><td></td><td>ワークシート記述</td></tr> </table>	関	対話、観察	鑑	対話		ワークシート記述
関	対話、観察										
鑑	対話										
	ワークシート記述										

## 7 本時の指導と評価の計画（9／11時）

### (1) 本時の目標

- ・友達の意見を参考にしながら、作品をさらに工夫して制作することができる。

### (2) 具体的評価規準

- ・自分の作品や制作方法について説明したり、友達の作品について適切なアドバイスをしたりする

ことができる。(関心・意欲・態度)

- ・友達のアドバイスを生かして制作することができる。(創造的な技能)

(3) 準備

- ・教師：糸のこぎり、糸のこ刃、ベルトサンダー、卓上ボール盤、木工やすり、紙やすり、クランプ、制作のあゆみ(進度表)
- ・生徒：教科書、資料集、クロッキー帳、筆記用具、制作に必要な材料

(4) 本時の展開

段階	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li><b>観点</b>：具体の評価規準（評価の観点）【評価方法】</li> <li>■努力を要する生徒への手立て</li> <li>◇主体的・対話的で深い学びを追究する手立て</li> <li>[共]：[共通事項]に関わる内容</li> </ul>
導入 5分	1 本時の目標と活動内容の確認。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時が制作6 / 7であることを伝える。</li> <li>・自分の進捗を確認させる。</li> <li>・ICTを用いて話合いの視点を確認させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>学習課題：友達の意見を参考にして、制作方法を工夫しよう。</b> </div>		
展開① 5分	2 途中鑑賞  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>アクティブタイム</b>  <b>【カルテット・高め合う】</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの作品を鑑賞し、作品をよりよくするための意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの作品を更によくするための意見交換の時間であることを確認させる。</li> <li>・互いの意図や制作方法の工夫を感じとらせ、質問をしたり適切にアドバイスをしたりさせる。</li> <li>◇「積層の工夫」「形の工夫」「組み立て(接着)方法」「加工方法」「飾りの工夫」などについて、<u>どんな工夫の方法があるのか</u>、お互いの考えを聞き合いながら話合いをさせる。 [共]</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈話合いのヒント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○積層の工夫について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような方法で積層を取り入れているか。</li> </ul> </li> <li>○形の工夫について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的な形のままにならないようにするにはどうしたらよいか。</li> <li>・形を更に工夫するためにはどうしたらよいか。</li> </ul> </li> <li>○組み立て(接着)方法について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな手順で進めると効率がよいか。</li> <li>・どのように接着したらよいか。</li> </ul> </li> <li>○加工方法について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな用具をどのように使用しているか。</li> </ul> </li> <li>○飾りの工夫について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな飾りが考えられるか。</li> <li>・端材をどのように使用しているか。            など</li> </ul> </li> </ul> </div>

		<p>■アドバイスや意見が浮かばない場合は、話をよく聞いたり、積極的に質問をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな意見が参考になったかを確認させる。</li> </ul> <p>関意見交換をしたり、適切なアドバイスをしたりすることで、グループの作品のよさや、新たな制作方法について学ぶことができている。 【観察、進捗表】</p>
展開② 35分	<p>3 制作⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いをもとに、制作を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な用具を使用するため安全面に十分留意をさせ、特に以下の点について指導する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な人以外、電動用具の近くに集まらない。</li> <li>・糸のこの刃を折ってしまったら、必ず上下のネジを一度外して、刃を取り除く。</li> <li>・ベルトサンダーの付近は木くずですべりやすいため、足下にも注意する。 など</li> </ul> </div> <p>◇話し合いの内容やアドバイスから、制作に生かせるものを参考にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>素材の特性を生かし、木のぬくもりが感じられるような加工、仕上げを工夫させる。</u> [共]</li> <li>・更に自分らしい個性が出るような装飾を工夫させ、完成を想定して細部まで丁寧に制作させる。</li> </ul> <p>■木材の直線的な形が残っている場合は、ベルトサンダーで、<u>丸みをつけてやわらかさを表現したり、他のパーツと組み合わせて立体感を出したりして、形を加工するようにさせる。</u> [共]</p> <p>■制作が行き詰まっている場合には、途中鑑賞の話し合いから参考になるものを選ばせる。</p> <p>創話し合いの内容を生かして、<u>制作意図に合う形や装飾、制作方法などを工夫し、丁寧に制作することができている。</u> [共] 【作品】</p>
まとめ 5分	<p>4 片付け</p> <p>5 本時の振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p><b>振り返り</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「制作のあゆみ」を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内に速やかに片付けをさせる。</li> <li>・木工やすりの数を確認する。</li> <li>・話し合い（途中鑑賞）の内容を本時の制作に生かされたか振り返らせる。</li> </ul> <p>◇参考になったアドバイスや、これからの制作に生かせることを制作のあゆみに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時、制作に必要な材料などを持ってくるように連絡をする。</li> </ul>

## 8 その他

### ○ 板書計画

題材名	スクリーン（模造紙）	アクティブタイム
学習課題		カルテット
進度		

制作のポイント 留意点	振り返り
----------------	------